



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：03-3541-5151
担当者の所属・氏名 皮膚科 桑島由佳

【研究責任者】

聖路加国際病院 皮膚科 桑島 由佳

IgAV血管炎（別称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病（HSP）, アレルギー性紫斑病（AP））の方を対象とした皮膚病理と重症度の相関に関する研究

1.研究の対象

2003年1月から2017年5月までに、聖路加国際病院皮膚科を受診した18歳以上の患者さんの中で、IgAV血管炎（別称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病（HSP）, アレルギー性紫斑病（AP））と診断または疑われた方。

2.研究の目的・方法

- IgA vasculitis (IgA 血管炎 (I g A V) またはヘノッホ・シェーンライン紫斑病 (H S P)) は免疫グロブリンのひとつである IgA が血管壁に沈着することを特徴的とする病理組織像を呈する全身性血管炎です。本症では、腎症が臨床的な長期予後の影響因子として知られています。私たちは病理組織学的所見の程度が強ければ、臨床的にも重症であることを経験しています。そこで過去に皮膚生検をした IgA 血管炎患者さんの病理組織像所見をパラメータ化することにより、どの病理所見が各臨床像や重症度、罹患期間に相関するかについて統計学的に解明致します。成人の IgA 血管炎の臨床的特徴と皮膚病理組織像の本病態における位置づけを解析することにより、これまで皮膚病理検査は診断ツールとしての役割が主体でありましたが、重症度を予測するツールとしての役割を担うことができると期待しています。この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、カルテに記載される内容と皮膚生検した病理組織標本について調査を行います。標本については既に当科外来に保管してあるので、患者さんにご負担は生じません。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2018年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、ステロイドなどの治療歴、腎障害、消化器症状の有無、罹患期間、血清 I g A 値 等

《試料》 病理組織標本（炎症のある血管の数 等）